

## 第 106 春季年会「イノベーション共創講演賞」表彰

産学交流委員会

日本化学会産学交流委員会では、1996 年度開催の第 72 春季年会から若い世代の講演発表者の研究活動の奨励を目的として「講演奨励賞」を、2008 年度からは「優秀講演賞（産業）」と改称して講演発表者を顕彰してきました。2012 年度からは、対象をアドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）で実施される ATP ポスター（2020 年度からイノベーション共創プログラム（CIP）ポスター）に限定して、審査・選考、表彰を行ってまいりました。2024 年度から「イノベーション共創講演賞」に名称を変更し、第 106 春季年会にて審査・選考を行いました。

この「イノベーション共創講演賞」は、「産業に対する寄与が期待される基礎的または応用的な概念、アイデア、実験手法、実験結果などについての発表であり、発表者の研究に対する主体性や貢献度が優れ、且つ今後の研究活動の一層の発展の可能性を有すると期待されるもの」に対して会長名で表彰するものです。

3月17日(火)～20日(金)に日本大学理工学部 船橋キャンパスにて開催された第106春季年会では、審査希望のあった研究者の講演を対象に産業界の審査員が審査しました（2024 年度より年齢制限を廃止）。CIP 企画小委員会および産学交流委員会による厳正な選考の結果、申請のあった 48 件の中から今年度の受賞者として下記の 3 名が選出されました。高い評価を得て表彰に値すると選考された受賞者には、その栄誉をたたえ、さらに一層の研鑽を積み重ねることを期待して、所属機関長を經由して表彰状および副賞をお届けします。なお、副賞は、2001 年ノーベル化学賞受賞者である野依良治博士の自伝で、ドイツ化学会の雑誌『Angewandte Chemie』の編集長を長年にわたり務められた Peter Gölitz 博士より、本賞受賞者のためにご寄贈いただいたものです。

### イノベーション共創講演賞 受賞者一覧

[資源・環境・GSC(Green Sustainable Chemistry)]

上田 善弘（国立研究開発法人産業技術総合研究所・主任研究員）

P3-1vn-09「使用済タイヤの二段階ケミカルリサイクル法の開発」

[新素材・材料]

吉田 嘉晃（九州工業大学大学院工学研究院・准教授）

P3-1vn-22「自己修復とリサイクルがともに可能な光学樹脂の開発」

[新素材・材料] 樋野 優人（高知工科大学大学院工学研究科・D2）

P3-1vn-35「弱光駆動と光反応中間状態の可視化へ：アントラセン誘導体結晶における“光-熱”二重応答制御」